Urban Design Lab. Magazine

卒業特大号！

東京大学都市デザイン（西村・窪田）研究室
工学部都市工学科／工学系研究科都市工学専攻
http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/index-j.html
編集長　：大森 文彦
編集委員：石井 かおる　北川 貴巳　松本 綾
柏原 葉那　越村 高至　萩原 拓也　福士 薫

都市デザイン研マガジン vol.191　2013.03.25

都市への思いを胸に　―博士・修士修了生からの置き手紙―

Graduation Ceremony was held ― The letters from Doctors and Masters ―

3月25日に博士・修士の修了証書授与式が行われ、それぞれ新天地へ旅立つことになりました。あいにくの曇り空でしたが、それぞれ晴れやかな表情で学び舎をあとにしました。幸多からんことを！

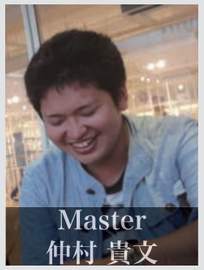
▲修了式後、都市デザイン研究室の修了生で、先生方と

Doctor 楊 恵亘

今年の３月で、デザ研にいる時間が８年となりました。これは、私の人生の四分の一となります。この８年間に、色んな人と出会い、日本のことを知るようになりました。今年度に、この８年間の一つの成果として、博士論文を提出しました。論文書くのは楽しいことではないが、一緒に戦ってくれる戦友がいるお蔭で、なんとか乗り越えました。私は論文の修正が長引いたため、年度末に学位がとることができませんでした。しかし、皆様と一緒に論文を進めることができて、とても嬉しく思っています。都市デザイン研究室に入れたことが本当に良かったです。なぜならば、この研究室にいて、研究室というのはお互いに尊重し合い、学び合う場所と分かりました。４月からも、暫く研究室にいるつもりです。どうぞ、よろしくお願いいたします

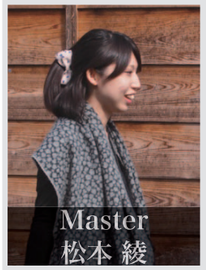
Doctor 松井 大輔

この度、無事にＤ論を書き終えることができました。研究室の皆さんのサポートのお蔭です。ありがとうございました。４年間の都市デザイン研究室での生活は毎日がイベントみたいで、一日として無駄な時間はなかったと思います。神楽坂と鞆 PJ、近代建築保存や真壁の公共施設の問題などを通して、多くのまちづくりの現場に触れることができました。そして、各地で考えてきたことをＤ論にすることができたわけなので、博士課程の集大成として満足できる結果になったと思っています。忙しくて辛い時もありましたが、その中で楽しもうと心がけてきたことが、色々な成果や人との出会いに繋がったのかなと思っています。この姿勢を大切に、研究を続けていこうと思います。研究室の皆さんと、また何かに取り組める機会があったら、うれしいです。



Master 仲村 貴文

２年間はあっと言う間で、その短い年月で多くの人に出会い、多く事を学ばせて頂くことができました。世界中から優秀な方が集まるこのデザ研は、刺激的で学ぶ環境としては最高場所であったと思います。夜遅くまで、先生や先輩、同級生と語らいだことは良き思い出となり、その中で「まち」という切り口で世の中とどう向き合えば良いのかを現場で学べたことは、一生の糧になりました。そこで活躍・実践されている地域の方、行政の方、若者の熱い想いが「まち」の今や未来を形作っているのだと感じました。それはロジックで片付けられる世界ではなく、そこに住まう人々の情熱が人やまちを動かすことができるのだと感じました。これから社会に出る身として、ここで学んだ事を活かしながら、世の中のお役に立てるように頑張りたいと思います。本当に２年間お世話になりました。



Master 松本 綾

活発なプロジェクト活動に魅力を感じて足を踏み入れた都市デザイン研究室、緊張していたのも束の間で、気付けば明るくのびやかな研究室が自分にとって居心地の良い場所に変わり、２年間があっという間に過ぎました。曖昧で、でもずっと頭の隅で気になり続けていた自分の興味を掘り下げ、とことん向き合う貴重な機会を得られた大学院生活は、忙しくも幸せな日々だったと感じています。実際に様々な場所に足を運んで調査を行い、徹底的に悩み、議論して提案に繋げる、というプロセスの中で、自分の力不足を痛感したり少し自信を持ったりと、現段階での自分のキャパシティを知ることが出来ました。このような大学院生活を通じて得た経験・多くの出会いはこれからの人生の糧となるものばかりです。先生方、研究室の皆様、本当にありがとうございました！

Master 石井 かおる

入学当初の予想だともっと大人の女性になっているはずでしたが、理想と現実は中々違います。だから面白い。この２年間で理想を持つ事の楽しさ、それを現実に当てはめた時の難しさを感じてきました。しかし自己が尊重される環境の中、研究室の先生方や同期、先輩・後輩など素敵な方々に出会え、沢山の事を学びつつ経験を積み重ねていけた事で、思い描く理想と現実の距離が以前より縮めて考えられる様になった気がします。これは、夢見る夢子ちゃんであった私が少し大人になった証なのかもしれません。長い学生生活がそろそろ幕を閉じ、これから現実の世界へ足を踏み入れますが、大丈夫な気がします。皆様のお陰でそれだけの自信も身に付きました。都市デザイン研究室に来られて、本当に良かったなと心から思います。日々新しい発見と幸せを感じつつ大人の階段を登って行きます。

Master 浅野 純子

「智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。兎角人の世は住みにくい。」

ただ生きることすら難しい世の中で、憂うことは多々あれど、それでも何かぼんやりとした譲れないものがあって、放っておけない街がある。

それに気づけたことが、長い学生生活の何よりの収穫でした。ありがとうございました。

Master 北川 貴巳

大学院に入学する前は、大学院というと、理論を「学ぶ」というよりも「実践する」場所、といった感覚がありました。実際に振り返ってみると、もちろん、プロジェクトという形でまちづくりの現場に立ち、実践する機会を多く頂けたことはとても貴重な経験になりました。しかしそれよりも、先生方や研究室のメンバーに恵まれ、学ぶ機会のより多い２年間だったなと改めて実感しています。都市デザインについて色々な方々と日々真剣に議論できたことは、今振り返っても刺激的で、自分にモチベーションを与えてくれているような気がします。２年間培ってきた考え方をしっかりと自分の軸に据えると同時に、この研究室でたくさんのことを吸収してきたスピードをこれからも保ちながら、目指すところまで走り続けていきたいと思います。皆様、ありがとうございました。

Master 安東 政晃

都市デザイン研究室に入って良かった。

それまで机上で物事を考えていた自分には、現場に出て考えた時間がなにより貴重な経験になったと思います。都市デザインという響きに華やかさを感じてやって来たけれど、現実の社会の難しさや生々しさのようなものを実感し、逃げ出したいと思ったこともありました。でも今では、この複雑で華やかではない現実でできることに挑戦していきたい、そんな心持ちになりました。

今の状態でもう一度２年間をやり直せれば、そう思うこともあります。やればやるだけ自分の世界は広がっていく、この２年間はそのことを教えてくれました。刺激的で温かい、都市デザイン研究室はそんな場所でした。出来の悪い自分の面倒を見続けてくださった先生方、そして研究室の皆様に感謝致します。ありがとうございました。

ああ、良い時間だったな。

Master 大森 文彦

２年間研究室で色々なことに取り組みましたが、結局自分の手元に何が残ったのか、最近不安になることがあります。２年間は本当にあっという間で、研究室に来た時の「都市への思い」は、果たして満たされたのか、それともより迷宮に迷い込んでしまったのか、そんな思いです。特に、清水 PJ に参加したことで深みにハマってしまった「港湾と都市」というテーマは、研究すればするほど底なし沼のようでしたが、心地良い砂風呂の様でもありました。

２年間ほとんど研究室で過ごすような日々でしたが、貴重な時間であったと思います。本当にありがとうございました。

研究室 @ 駒場 追いコン開催

text_ishii

３月23日(土)に、一足お先に先端研@駒場に所属するメンバーの送別会を池ノ上のレストランで開催しました。本郷の研究室に比べ人数が少ない事から、一つのテーブルを囲んだとてもアットホームな雰囲気の中で、研究室のメインテーマであるまちづくりからお酒や日本各地の方言など、あらゆる話題で夜遅くまで盛り上がりました。

研究室 OG(2009 年) 博士修了

リー・クイン・チーさんご成婚！

特任研究員　傅 舒蘭

現在ベトナム工業大学の教員になっている OG のリークインチー (Le quynh chi) さんが３月５日にハノイで盛大な結婚式を行いました。OG の野上さんと傅で、研究室からのお祝いメッセージを持って行きました。チーさんはとても幸せそうだったです。おめでとうございます！

▲結婚式の様子

▲結婚式後、左から野上、傅、チーさん

連載企画

“留学生コーナー第 22 弾！”

Riga and Tokyo : subtle resemblances

多くの国から学生が集まる都市デザイン研究室。それぞれの視点で都市を語る留学生コーナーの 22 回目は韓国からの留学生宋 知苑 (SONG Jiewon) さんです。

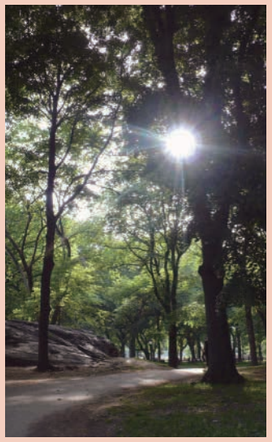
【路地の楽しさ】

D1　宋 知苑

日本に移って３ヶ月になりました。東京で好きな場所はと聞かれて真っ先にその名前がでてこないことは少し反省をしてしまいます。そのかわりとしては何ですが、私の好きな空間の話をしてみたいと思います―路地です。神楽坂の事を言っているのではと思われるかも知れませんが、世界中の路地のことです。

その路地の楽しさは何と言っても道の先になにがあるか見えない迷路的なところではないでしょうか。あのニューヨークのセントラルパーク内の散歩道にもその路地のコードらしきものが組み込まれています。セントラルパークのランドスケープデザインを手がけたフレデリック・ロー・オムステッドは道の先に何があるか見えないようにすることで、散歩する人にワクワクしながら歩いてほしいという願いを込めたと聞きます。

そういう意味で路地は東西共通の空間コードなのではと思ったりもします。まだまだ体験していない路地がたくさんありますが、今のところ私にとって一番印象的だった路地空間はモロッコのカサブランカで歩いた路地です。道に迷う楽しさが格別だったとでも言いましょうか。そして、路地の楽しさを満喫するために私がすることは「手に地図を持たない」ことです。



▲セントラルパーク内の散歩道

▲カサブランカの路地

プロジェクト報告

年度末もプロジェクトは大忙し！

春は一年間のプロジェクトのまとめの季節。清水 PJ は報告書などに追われる傍ら事例調査へ、佐原 PJ は現地報告へ、鞆 PJ は今年度最後の現地調査へ！

清水 Shimizu-project プロジェクト

―大分・門司港・広島・尾道、事例調査旅行―

text_hagiwara

▲倉庫を改修した店舗が並ぶ大分港

▲防潮堤を階段状に整備し倉庫をカフェに (広島港)

▲尾道港上屋周辺の公共空間整備

清水 PJ メンバーで３月 15 日（金）より３日間、大分広島の港湾再生事例の視察を行いました。

15 日に訪れた大分港の西地区では、倉庫や上屋の活用事例を見学すると共に、大分県職員の方や大分で 20 年にわたって港づくり活動行なっている NPO 大分ウォーターフロント研究会の早瀬様よりお話を伺うことができ、試行錯誤を繰り返しながらも、身の丈にあった港づくりを進めるプロセスは、これからの清水での活動に大いに参考になるものであると感じました。

翌日以降は門司港、広島宇品港、尾道港を訪れ、上屋の活用の様子を中心にウォーターフロントの整備の状況を見学しました。各港で規模や再生手法は様々でしたが、どの港でも多くの人が海辺の散歩を楽しむ様子が見られるなど、市民や観光客と港の距離が確実に近くなっていることを感じました。また、港湾視察の合間には、広島県竹原市の重伝建地区や、昨年矢吹元編集長が修論の調査対象地した尾道の空き家再生活用事例も見学し、充実した調査旅行となりました。

▲竹原の伝建地区とチーム清水

▲尾道の斜面地にて

佐原 Sawara-project プロジェクト

―改築・活用提案、現地報告会―

text_kashiwabara

３月 14 日 (木)、香取市役所において、成果発表会が行われました。今年度後半の佐原 PJ では、まちの中心である忠敬橋の袂にある公衆トイレの改築計画と、市が所有する空家の活用計画という２つの提案作成をメインに活動してきました。２つとも、佐原の真ん中を通る小野川沿いにあることから、『観光地であることを活かした魅力的な「まちなか」づくり』を大きなテーマとして発表を行いました。忠敬橋袂の提案では、江戸時代からそこにあるという公衆トイレを、形は残したまま機能を観光客向けの情報発信機能に変える提案を行いました。

空家活用の提案では、「まちの学校」と題し、住民が主体的・日常的に使える伝建物がまちなかに必要なこと、それが生活景として観光での魅力にも繋がることを主張しました。

発表当日は、市役所内外の 30 人以上の方にお集まり頂き、質疑応答では熱い議論が交わされました。厳しい指摘もありましたが、保存・修景に対する強い想いを受け、こうした発表の機会を設けて頂けることに感謝しつつ、また、来年度の活動に繋げていきたいと思います。来年度後半では、提案を行った空家で実際に活用実験を行うことになっています。来年度の佐原 PJ にも乞うご期待…！よろしくお願いします。

▲忠敬橋袂の模型写真

▲発表当日の様子

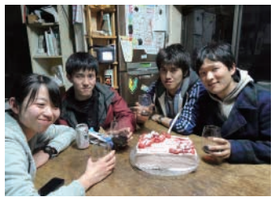
▲発表終了後模型を囲んでの議論は白熱しました

鞆 Tomo-project プロジェクト

text_kitagawa

３月 21 日 (木) ～ 23 日 (日) に、今年度最後の鞆プロジェクト現地調査を行いました。現役メンバー２名に加え、初の訪鞆となる D1 の宋さん、M2 の馬場・北川も参加し、計５名での訪問となり、少人数での活動が多かった鞆プロジェクトの調査も、久しぶりに賑やかさを取り戻しました。今回の訪問では、鞆の代名詞である港周りの空間にもう一度焦点を当て、ヒアリング調査から実測調査・図面起こしまで、幅広くかつ丁寧に進めています。詳細な調査・分析を通し、提案につなげていくための土台づくりを行うことが目的です。

また、夜には、お世話になっている現地 NPO の方々のご好意で、M2 の卒業を記念した大きな手作りケーキを頂くというサプライズが…！現状分析を一通りまとめた後には、本格的な提案やプランニングを行なっていく予定です。今後の現役メンバーの活躍に、是非ご期待ください！



▲皆で美味しくいただきました

▲実測調査中も笑顔が溢れます

information

３月・４月の予定

4 月 10 日	2012 年度プロジェクト報告会
	17 時から東京大学本郷キャンパス工学部 14 号館 141 教室にて 2012 年度に都市デザイン研究室が進めたプロジェクトの成果を、報告会という形で発表いたします。一般公開ですので、ご自由に参加いただけます。 ぜひお越し下さい。
4 月 16 日	第 1 回研究室会議

押しかけ (?) OB めぐり in Europe

text_omori

２月 14 日 (木) ～３月１日 (金) に修士２年のマガジン編集部４名でイギリス・ポルトガル・スペインに卒業旅行に行きました。ロンドンでは、ウェストミンスター大学に留学中の OB 岡村祐先生 (首都大) とフランス国立科学研究センターに在籍中の江口久美さんに、バルセロナでは研究滞在中の OB 阿部大輔先生 (龍谷大) にお会いし、世界に広がる研究室のネットワークを改めて実感しました。

▲ロンドンのパブで岡村先生と

▲阿部先生行きつけのバル「魚屋」で

▲セントパンクラス駅前で江口さんと

編集後記

大森 文彦

この１ヶ月ほど築地のシェアハウスに身を寄せているのですが、近所に老齢のご夫婦が経営する「ひよこ」という老舗のカフェがあります。非常に安く美味しいコーヒーやサンドイッチを楽しめるのですが、奥様は年齢のせいかお勘定がかなり曖昧で、ほぼお客さんの自己申告でお勘定を払っています。さらに店内ではパソコンや携帯電話を操作してはいけない、というルールもあります。しかし、近所の高齢の方々や会社員がひっきりなしに出入りしており、お客が絶えることはありません。オフィス街に飲み込まれようとしている昔ながらの街で、小さな憩いの場がいつまでも続くといいな、と感じる次第です。さて、マガジンも今号を持って修士２年が引退し、来月から新たな体制でスタートします。引き続き皆様からの御指導御鞭撻とご愛読のほど、よろしくお願い致します！